

九州産業考古学会報

第13号 2010年2月22日発行 発行元：九州産業考古学会

熊本産業遺産研究会 役員交代のご挨拶

中田浩毅（会員）



紙面を与えられた機会に、熊本産業遺産研究会の近況を報告したいと思います。2003年の研究会設立から6年間、松本晋一会長、幸田亮一事務局長という体制でやってきましたが、昨年6月に行なわれた総会で役員交代が承認されました。磯田桂史会長、中田浩毅事務局長、本山聡毅事務局次長（会計担当）の新体制となりましたので宜しくお願いいたします。

これまでの活動を振り返ると、この6年間に14回の見学会をはじめ、シンポジウムや講演会など様々な活動をしてきました。また、昨年は市原猛志さんをはじめ多くの皆様の力強い協力も頂いて、研究会での初めての本となる『肥薩線の近代化遺産』（弦書房）を出版することができました。この本は、会員の皆様と実に長い時間協力しあい作業を進めた成果物であり、会としても貴重な経験となりました。今後は、従来通り見学会を精力的に行なうほか、研究会から外へ向け広く情報を発信していき、会員の拡大や、市民の産業遺産への関心を高めることが出来たらと思っています。

さて熊本産遺研の事務局長になった私を「誰だ？」とお思いの方もおられることでしょう。簡単に自己紹介をさせていただきますと、私は映像プロダクションに勤める会社員で、特に産業考古学に関する専門的な知識はありません。ただ以前から古い建物などには興味があり、産業考古学という言葉すら知らないままに建築や鉱山跡、発電所跡、廃線などを見てまわり、それらの写真や探訪記を「九州ヘリテージ」というWebサイトを通じて紹介してきました。

そんな中、ネット上で熊本産業遺産研究会を知り、「個人では見学できないようなところを見る事が出来るかも」という何とも軽い気持ちで2005年に入会。その時、産業考古学会の川上顕治郎会長（当時）の「産業遺産のおもしろさ」という講演を聞き、初めて“産業考古学”という言葉に触れました。そして研究会では様々な専門家や愛好家からそれぞれの“楽しみ方”を教えて頂き、今では大いに「産業遺産を知る」喜びや、「産業遺産のおもしろさ」を味わっております。

かつての私のように、漠然と“古いもの”に興味・関心がある人は少なくはないと思います。研究会の活動を通じて、そのような人々の興味をつかみ、産業遺産への理解へと繋げていければと思います。

【報告】

T I C C I Hフライベルグ会議に参加して

山田大隆（酪農学園大学）

1. 会議の歴史と会場

フライベルグ市の工科大学で開催された第 14 回 T I C C I H（国際産業遺産保存委員会）国際会議（2009.8.30～9.5）に出席した。テーマは産業考古学の今日的課題を反映した「産業遺産—エコロジーとエコノミー—」で、学会ツアー、ワークショップもこれに沿ってなされた。

委員会創立 37 年目で、ドイツで 34 年ぶり 2 回目の今大会は、参加数は世界各地 5 大陸から 39 ヶ国 363 人（日本からは 18 人、3 位）、研究発表数は 4 日間で 208 件（日本から 6 件）で史上最大級の会議だった。

開催地の古都フライベルグ市（人口 4.3 万人）は、旧東ドイツ、ザクセン州にあって、世界遺産都市ドレスデン市（人口 50 万人）に近く（45km）交通便利で、中世からエルツ山岳地方の銀、カリ鉱物地帯 36 鉱山の中でも中心的鉱山都市である。著名なアグリコラの鉱山書「デレメタリカ」（1550）の調査地で、当地の世界初の鉱山学校（ベルクアカデミー）には、明治維新时期に北海道開拓を指導したアメリカのライマン、生野銀山開発のフランスのコワニエ、明治期の日本の鉱山技師等多数が留学した、当時世界的な鉱山学指導都市で、日本にとっても因縁の深い都市である。ドイツ国鉄 DB の駅から徒歩 5 分で旧リンク内の旧市街に



写真 1 T I C C I Hフライベルグ国際会議

入り、メイン通りの王宮（フロイデンシュタイン城）を中心に石造りの歴史的建物が並ぶ。レストラン、マルクトプラッツ、ラートハウス、大小の教会、3 校舎からなる工科大（旧ベルクアカデミー）を配列した観光振興の大学都市で、同規模の大学都市ゲッチェン市に雰囲気がよく似ている。

2. 会議の内容

会議は 30 日午後に大学中央校舎で登録、夕方に市街ガイドツアー、6 時から王宮で開会式とレセプションがあり、市長、実行委員長、会長の挨拶の後、中世衣装をした楽団による鉱山文化のコーラス、楽器の郷土芸能が披露され、懇親会で参加者の顔合わせがあった。

1 日目（31 日）は大学旧校舎講堂（アルテメンザ）で開会式がなされ、300 人が参加した。市長、ザクセン州首相、実行委員長、E.カサネルズ会長（カタルニア産業博

博物館長、氏は10年間この学会の国際化に尽力し、今回で勇退。アメリカのP.マーチンミシガン工科大学教授に会長交替する）の挨拶、開催国ドイツ委員会を発展させたメンデ氏の追悼会の後、招待講演があった。N.コッソズ卿（元ロンドン国立科学博物館長）、R.スロッタ氏（元ポッフム・ドイツ国立鉱山博物館長）の二長老から、産業考古学の今日的課題、ドイツ産業考古学研究34年を懐古する講話がなされた。続き基調講演4氏は、地元工科大学のフェール、テファー、グルーベ、デトマー教授で、テーマに沿った産業遺産保存の経済問題、環境と考古学のランドスケープ（遺産保存をしないと将来はTVを見ての景観学か）等の話題提供で、刺激的で斬新な内容だった。午後からの研究発表（28件）では、日本から岡田昌彰氏（近畿大理工学部教授）「歴史的塔構造物の景観について歴史的評価」の発表がされた。

筆者はこの町を有名にした銀鉱山博物館を視察した。博物館はリンク外近く、国立で、現在は立坑が稼働のアンダーグラウンド・ツアー、鉱山書販売、旧ベルクアカデミー所蔵の歴史的鉱山機械模型50点の展示場が有名である。鉱山史料は大聖堂向かいの市立博物館にもあり、高水準の市史と鉱山史図書、地図類は王宮（内部は鉱物博物館）内書店に多種多数販売され、資料入手上有益であった。

2日目（9月1日）は、5日目にもある計2日間の学会ツアーの1日目で、IBA（イバ、国際建築博覧会、東独IBA）企画のコトブス市近くのSEE（景観産業遺産企画のNPO）主宰の産業景観ツアーであった。「領主ピクラー王国ツアー」と名付けられ、旧東独ルザチア地方（ブラウンシュバイク市南部）の1日バス観光であった。広域で見所は多く、翌日残り部分の非公式任意ツアーが募集実施された。東独IBAでは、旧東独ブラ

ウンコール（BK、褐炭、戦後年4.5億トン生産のドイツ最大埋蔵量の原料炭）露天掘り跡整備の企画立ち上げ以来、SEEは中心として活動、また今回は多くのSEE出版物が公表配布され、会員参加と運営の熱心さが目立った。

ツアーの見所をいくつか紹介すると、最初の訪問地はエルスターベルダとラオホハンマー市の間にある1927年建設煉瓦造りのプレッサ石炭火力発電所（初期出力1万kW、最終3.4万kW）の見学。ヨーロッパ最初のBK発電所で1989年東西統合下で疲弊し、92年停止。1930年代技術典型として1998年全面保存が決定、東独IBA活動拠点（事務所）となった。燃料倉庫、ベルトコンベア、石炭ボイラー、蒸気タービン、制御室を学生英語ガイドツアーで見学した。今回は、ここで歓迎会と見学会終了後のレセプションも行なわれた。

次に訪れたのはグロスレッシュェン地区のランドマーク観光「ビジターセンターIBAテラス」。発電所の隣にあり、東独時代露天掘りの荒廃サイトで、長さ500mの巨大コンベヤーブリッジ、ドラッグラインマシンでの採掘サイトであった。1989年統合後停止し、跡地に雨水が貯まって、コトブス市まで20余りの湖沼群となっている。乱開発時代の負の遺産が景観遺産、産業観光資源となっている。採掘機械の技術史図書やSEEの活動資料が展示販売され、ドイツ露天掘り技術史の貴重な情報源となっている。

続いてテラスの隣にあるラオホハンマー地区のバイオタワー遺産群を見学。泥炭状の草を発酵させ、最終的には家庭用暖房の練炭燃料を作る。24本、高さ23mの煉瓦塔で屋上にはガラス張展望テラスもあり、美的な林立光景はIBA的産業光資源として残った。1989年統合後に廃棄、全システムの概観がないので、技術が分かりにくい。

リヒターフェルド地区では世界最大のド

ラッグマシン「トラスブリッジ F60」を見学。長さ 502m、幅 240m、1.6 万 t、切削可能表土厚さ 60m、1 時間の表土切削能力 2.9 万 m³、1 日移動距離 15m、電力 2.3 万 kW で稼働している。1988 年ラオホハンマー市のタクラーフ社製で、1997 年保存決定、2002 年より IBA 企画展示物として一般公開。英語ガイドツアーがなされ、ビジターセンターでは稼働中の映像を見た。ドイツ BK 露天掘り技術の最大物で、戦後 BK 生産技術の象徴である。



写真 2 ドラッグマシン「トラスブリッジF60」

3 日目(9 月 2 日、72 件)と 4 日目(3 日、64 件)は全日研究発表で、日本人の発表は 3 日目に、寺沢安正氏(中部産業遺産研究会)「日本アルプス山麓の宮代水力発電所遺産」、栗野宏氏(山形大学工学部教授)「最近 50 年間の日本山岳を越えるルートの歴史—歴史と遺産」の発表がされた。4 日目には堤一郎氏(職業能力開発総合大)「日本における鉄道遺産認定システムの史的概括と JR0 系動力分割新幹線の新認定」の発表(当初発表予定の青木栄一元東京学芸大教授が欠席のため代行)がなされた。

5 日目(4 日)は学会ツアーの 2 日目で、繊維産業・機械工業都市ケムニッツ市の産業遺産視察であった。フライベルク駅に 8 時集合、動態 SL で市まで 1 時間の保存鉄道旅行をした。ミッテ駅から徒歩 10 分で、ケムニッツ工業博物館 IMC に着く。館長歓迎挨拶後、二氏(ホフマン=アクテテム氏、ウエセラー氏)による基調講演があった。ケムニッツ工業史概観と都市再開発紹介であったが、建築史は高い水準だが、期待した繊維、機械工業史紹介は少なく、多少不満が残った(1989 年統一後疲弊した市は産業遺産廃棄をしてきた)。ついで館内見学を

したが、繊維工業史以外展示が旧式で、運営も大変という。2005 年には欧州博物館賞を受賞しており、今後の資金導入による発展が望まれる。最後にバスガイドツアーで、市内歴史的建造物めぐりをした。機械類は廃棄され建物のみの見学だが、保存活用の例として、かつての繊維機械工業大都市を記す産業史の片鱗は見てとれた。

主要施設を紹介すると、まず旧ベルンハルト紡績工場(1798 年、現高齢者向き高級 MS)。ここでは 3 つの 5 階建旧工場、事務所建物が復元されている。旧工場 1 階にケムニッツ繊維史展示がある。これと事務所は高齢者向け医療完備の高級 MS 改修である。周辺は 1800 年代の歴史的建物が多く貴重で、今後の繊維史博物館公園整備公開が期待される。

旧モリッツ・サミュエル・エッシェ靴下製造機械工場(1870 年、現ヘルスセンター)は、メインビルでの赤黄煉瓦での外壁、高さ 22m の高塔が市内で目立つ建物。

旧シェーンヘル繊維工場(1799 年、現産業商業地区)。4 階建工場、時計塔のある中央建物が復元再現され、現在商業、レジャー、文化の多目的ホールとなっている。

旧シューベルト・ザルツァー編物機械製造工場（1883年、現商業公園）では、63mの高塔を持つ建物が復元再現されている。工場が解体されたブラウンフィールド（高汚染未使用空地）は4.5万㎡で被覆して商業的公園（企業メセナ等）として利用。周辺に旧建物あり。

旧ワンダラー自動車工場（1885年、現多目的ホール）。自動二輪車製造から発展し、タイヤライター、繊維機械、戦車エンジン、戦後は航空機エンジンも製造した。工員は9300人雇用、建物は市最大工場で23万㎡あった。ほとんど現存し修復され、2割強がメセナ、文化、催事、貿易イベントに活用されている。

旧サクソン刺繍機械製造工場（1872、現行政管理下遊休施設、博物館的公開予定）。自動車工場の敷地外れに孤立して現存の放置建物。ドイツ唯一の現存木造工場（外壁は煉瓦造）で、貴重な建築史産業遺産。巨大だった刺繍機械工場群の一部（最古）で、第一級建築記念物。支柱が木製だが、当時は鉄骨より強力だった。天井走行クレーンも現存。

6日目（9月5日）は会議最終日。午前中に最後の研究発表（44件）で、日本人の発表は、若村国夫氏（岡山理科大学理学部教授）「日本、ドイツ、オランダでの歴史的石積みドライドックの国際比較」（ポスター）と、森田優己氏（桜花学園大教授）・森田伸二氏（名城大経済学部教授）「観光振興が世界産業遺産に及ぼす諸影響」がされた。

午後2時からアルテメンザで総会（100名参加、日本から5名）があり、議事録署名人選出、メンデ氏追悼、カサネルズ会長退任挨拶と名誉会長就任、新会長選考ではP.マーチン氏（ミシガン工科大学社会学部教授、SIA代表者）が選出され、念願のこの会議の非西欧化（実質的国際化）が実現した。次いでこの会議と新興アジア企画のイ

ンドネシア=日本の建築家集団組織（mAAN）との組織提携がされ、代表で禅野靖司氏（東京大生産研）から挨拶。会議予告ではICOMOS総会（2010年オーストラリア）、ICOTEC総会（2010年フィンランド）の紹介があった。注目の次期第15回2012年TICCIH総会開催国決定は、ブラジルの下馬評もあったが立候補はなく、非西欧国開催の声もあり未決で委員会預かりとなった。8常任委員に台湾、インドから選出はあったが、日本人は選出されなかった。30年以上の連続出席で国際的飛躍も期待され、2005年名古屋市でTICCIH中間会議を実施した日本として残念だった。

3. 会議の感想と今後の課題

筆者にとり2000年（10回）ロンドン大会以来、9年ぶりの参加だったが、参加国の多様化、大規模化、現代課題の緊急性（遺産保存と経済問題、環境問題）が新しい傾向で、参考となった。特に、旧東独の産業遺産（統合後の対応、大規模露天石炭採掘）と活用運動状況（SEE活動他）は従来見学困難な地での初体験で、IBAエムシャーパーク以外のドイツ情報として貴重であった。フライベルクの鉱山史と工科大の継承現状は、歴史資料、博物館情報とともに年来の収集願望が達成出来て満足した。30年を超える多年の参加実績を有する日本としては、遅れている国際的発信を実現するものとして、種田明氏（静岡文化芸術大学教授）主導で国内態勢を完備（歴代の会議参加者を糾合）し、TICCIH日本委員会（仮称）を結成して、NPO組織として発足させることが緊要に感じられた。



【報告】

日本技術史教育学会全国大会見学会参加記

藤野昌亮（会員）

見学会は時折降る小雨の中、日本技術史教育学会・九州産業考古学会両会員に、西日本短期大学の学生も加わり、50人近い参加者で西日本短大付附属高校のバスに乗り込み、西鉄久留米駅前をスタート。田中久重生誕地の碑を見学後、ブリヂストン通りを經由して、以下の6ヶ所の見学先に向かった。

①筑後川昇開橋(大川市、国重文・機械遺産)

塗装工事中のところ担当者のご好意で詳細な説明に加え、橋桁の昇降実演までして頂いた。この橋梁は昭和10年の竣工から佐賀線の廃止の昭和62年まで運用された。48tの昇降桁は、大川側と佐賀側の鉄塔内にある各々28tと20tの平衡重りで支えられ、大川側のモーターで持ち上げられる。さらに昇降桁の両端を左右の鉄塔に固定したワイヤロープ(平衡ロープ)に結びつけることにより昇降時水平に保たれている。

また昇降速度は2段階あり、着地直前のショックを和らげるなど、設計者の工夫に感心させられた。河畔からの眺めは素晴らしく、塗装が完了すればさらに見栄えがする観光資源となるだろう。



写真1. 筑後川昇開橋

②内野樟脳工場(みやま市)

天然樟脳工場は筑後地区に5～6軒もあったのが、現在は内野さんの工場が日本でただ1軒という。樟の木をチップにする「円盤」は先代から80年間使用、円盤にとりつけてある12枚の刃は、樟脳エキスが抽出しやすいよう、刃の向きを考慮して取り付けられている。匂いもきつくなき、天然の樟脳が見なおされているが、現在は後継者もいないということで、今後が懸念される。



写真2. 内野樟脳工場の「円盤」

③八女伝統工芸館(八女市)

和紙、仏壇、竹細工、石灯籠、提灯と八女地区の古くからの伝統工芸を一堂に展示する、なかなか楽しい工芸館である。今回は紙漉きの実演説明をして頂いた。八女近郊に工芸の材料となる資源があったことが一連の工芸品の生産となったと思われるが、全国的にも特異な地区ではないかと感じた。

④友清「博多発動機館」(筑後市)

収集された130台の発動機(エンジン)が、棚の上にずらりと並んでいる姿は壮観。珍しい炭火でエンジンヘッドを温めて起動す

る焼玉エンジンを含め何台も実際に運転して頂いた。戦前から農林作業に大活躍した発動機は今や産業遺産になろうとしているが、動態保存をされている友清栄一館長さんの収集への執念と熱意にはびっくり。



写真 3. 「博多発動機館」のエンジン

⑤久留米絣工房「山藍」(広川町)

絣の織物の出来あがるまでの工程を見学。藍甕の管理、括り作業、縦糸、横糸の模様合わせ等々、気の遠くなるような作業を経ての絣の着物。価格も高くなるのは当然と納得させられたが、この不景気のご時世、久留米絣の将来が心配である。

⑥つきほし歴史館(久留米市)

明治 6 年創業の小さな「足袋や」が創業者の倉田雲平の創意、努力により大正 9 年ゴム底を貼り付けた地下足袋を皮切りに、長靴、運動靴の生産、そして現在の(株)ムーンスターへと発展した状況が資料として展示され仔細に眺めると興味は尽きない。

心配した雨も時々小雨の状況で終始、無事予定の見学を終えた。筑後ならではの見学会を設定して下さった関係各位にお礼申し上げます。



【短信】

随想・備前福岡と倉安川吉井水門
清永憲道(会員)

産業考古学会 2009 年度全国大会(津山市)に参加する途次、予てから願っていた岡山市吉井の吉井水門を見学することにした。倉安川吉井水門は、備前大橋を渡り数百米上流の右岸堤防脇に秋の陽光を浴びていた。

運河の喉元である吉井水門は、吉井川からの取水のため堤防に築かれた「一の水門」、倉安川側の「二の水門」と楕円形の船だまり(高瀬廻し)を有し、二つの水門によって水位差を調節して通船する閘門式(こうもんしき)の水門である。また、船だまり(高瀬廻し)は出水時の避難や検問等に使用されたと言われている。現在は、別の個所から取水しているため「一の水門」には水が無く、石積み、水門など往時の土木構造物が観察できた。



写真 1. 倉安川吉井水門「一の水門」

倉安川は、児島湾の干拓新田(300町歩)の灌漑用水確保と吉井川・旭川間を水路で結ぶために岡山藩主池田光政が藩郡代の津田永忠(1640-1707)に命じて造らせた、延長 20km(川幅 4~7m)に及ぶ運河で、延宝 7 年(1679) 2 月に起工、同年 8 月に竣



写真2. 倉安川吉井水門「二の水門」

工している。大部分は既存の小河川、用水路、沼地等を利用して短期完成に至っている。水運には年貢米、日用食品を搬送する高瀬舟が利用された。この高瀬舟も時代とともに、また搬送物によっても舟底等の形状が変遷している。

水門へ行く途中、堤防を通行中にタクシーの運転手が、「福岡城址はこの付近です」と教えてくれた。城址は吉井川の右岸、左岸に二つの説があり、地元では城下町が並ぶ左岸説をとっているようである。何れも小高い丘だけで史跡は乏しいらしい。

水門から城下町へ引き返すため備前大橋の歩道橋を渡る。途中左岸堤防下の集落へ足を向ける。梯子式檼や黒い肌の焼杉壁を持った家並が続く。昼下がりの集落は静寂であり、ゆったりと時が流れている。集落を抜けると一面田圃である。籾を落とした藁束が田圃全体に立てかけられて幾何学模様をなす。穫り入れたばかりの藁の匂いが郷愁をそそる。藩政時代も城下町を中心に小集落が幾重にも分布したであろうと想像する。

半里程歩いた先に現代の町並みが見えて

きた。その一角に備前福岡藩の城下町はあった。直ぐそばを吉井川が流れ、箱庭を想わせる町である。川と並行して延びる二本の往還の両脇を民家が連なる。途中、左右にそれぞれ名前を付した小路が枝葉のように別れている。往還の中程脇に七井戸跡が整然と並んで往時を偲ばせる。

民家と並んで山門が建っている。遠くから大屋根の寺院が見えた黒田家ゆかりの寺、日蓮宗教意山妙興寺である。応永十年（1403）に建立されている。山門・仁王門をくぐると鐘楼堂、庫裡・文庫など

が左右に建ち並ぶ。奥まったところに本堂があるが、建物に較べて境内はさほど広くない。戦国時代には寺域は2町歩余りだったが、江戸時代の大火で焼け縮小されている。そばの墓地へ廻る。現存している黒田家、宇喜多家の墓所には、苔むした大小の墓石が風雨に耐え立っているが、墓標は風化が進み読みづらい。一昨年立てられた案内板で概要を知ることができた。

昼を過ぎた頃、赤穂線長船駅に足を向けた。この地方の諸史跡は自然と住民の生活が一体であり、忘れかけた自然との原風景を訪問者に思い出させてくれた。



写真3. 黒田家の菩提寺・妙興寺

【お知らせ】

「航空 100 周年記念・日野熊蔵の飛行機遺産に学ぶ」

=文化財のしらべ♪親子で楽しむ体験コンサート♪=

ジャズ演奏を交えながら、日野熊蔵が日本初飛行で乗ったグラデー号と日野式飛行機、日野の作曲した『飛行機唱歌』の紹介、彼の発明品他についてのリレートーク。
日野の飛行機模型と写真パネル展示など。

期日：2010年3月22日(祝) 10:00～18:00

(コンサート・講演会は 13:00～16:00)

入場無料・参加申込不要・先着順

場所：山江村「時代の駅むらやくば」

(熊本県球磨郡山江村大字山田甲 1415)

内容：

10:00～13:00 会場見学・日野飛行機資料展示(グラデー号設計図、日野熊蔵の写真等関連資料パネルなど)

(12:30～受付) 13:00～開会

13:10～13:30 演奏「翼を下さい」他

公演者：園田智子・園田雄也(ジャズ演奏)

13:30～15:00 リレートーク

「日野熊蔵日本初飛行」 渋谷敦(伝記作家)

「初飛行グラデー号」 早川博康(古典機研究家)

「熊蔵の飛行機たち」 松本晋一(産業考古学会)

15:00～15:20 演奏合唱会「飛行機唱歌」他

15:30～16:00 フリートーク「日野が乗った飛行機たち」

16:00～18:00 交流会(2000円当日徴収)、演奏会・展示紹介など

記念品：飛行機グッズ、絵葉書ほか予定

主催：熊本産業遺産研究会、文化庁など

連絡先：山江村役場産業情報課

(TEL:0966-23-3113 / FAX:0966-24-5669)

【お知らせ】

九州国際大学社会文化研究所 連続公開講座
「製鐵所と世界遺産」

「知っとーお？北九州市の世界遺産」

日時：2010年2月27日(土) 14:00～16:20

場所：九州国際大学 KIU ホール

入場無料・先着 400 名まで

1 部講演

「知っとーお？北九州市の世界遺産」

清水憲一(九州国際大学経済学部教授)

2 部講演

「これまでの経緯と今後の登録に向けて」

陶山正徳(福岡県世界遺産登録推進室長)

パネルディスカッション

「地域が応援する世界遺産」

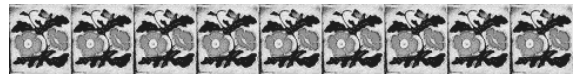
コーディネータ：清水憲一

パネリスト：陶山正徳

松尾孝治((社)北九州青年会議所前理事長)

井上龍子(八幡駅前開発(株)専務取締役)

申込・問合せ：九州国際大学大学総務室
(TEL:093-671-8910)



【お知らせ】

熊本産業遺産研究会見学会「城山銅山探訪」

日時場所：2010年3月20日(土)8:00 益城町
下陳集合(参加者は別途個別に連絡)

行程：東さん宅跡地→津森城跡→林道→金山
山川沿いを銅山跡地へ(雨天中止)

費用：未定(傷害保険数百円程度)

準備品：懐中電灯、帽子(ヘルメット)、軍手、昼食、飲料、川下り用の予備靴下・着替え、出来れば登山靴などが安心(未整備の山間部を片道3時間程度歩くため、体力に自信が無い方は参加をご遠慮下さい。)

参加連絡先：名前、住所、電話番号、生年月日を明記の上、3月10日までに熊本産遺産研事務局(kumamoto.isan@gmail.com)へメールで連絡下さい。

◇◇会報原稿募集（会員外でも応募できます！）◇◇

『九州産業考古学会報』への積極的な投稿をお願いします。募集原稿は以下の通り。

- ・【お知らせ】…学会やイベント告知、産業遺産に関連したお知らせなど（700字以内）。
 - ・【研究発表】…産業考古学に関連する学術的報告。B5版2～4枚（1400～2800字程度）。
- いずれも図表を入れる場合文字数要調整。また紙面の都合上、文面レイアウトに関して編集側で変更を施す場合があります。詳しい情報は学会ウェブサイト及び事務局まで。

■■会報第13号・目次■■

【巻頭言】

熊本産業遺産研究会役員交代のご挨拶
 ……………中田浩毅 1

【報告】

T I C C I Hフライベルグ会議に参加して
 ……………山田大隆 2

日本技術史教育学会 2009年度全国大会見
 学会参加記 ……………藤野昌亮 6

【短信】

随想・備前福岡と倉安川吉井水門
 ……………清永憲道 7

【お知らせ】

「航空100周年記念・日野熊蔵の飛行機遺産に学ぶ」……………9

九州国際大学社会文化研究所連続公開講座
 「製鐵所と世界遺産」……………9

熊本産業遺産研究会見学会「城山銅山探訪」……………9

会報原稿募集……………10

今後の予定……………10

（お知らせ内の各イベントは、頁末の当会ウェブサイトからもご確認ください）

今後の予定

月・日	活動内容
2月27日	知っとーお？北九州市の世界遺産（北九州市・九国大）
3月21日	世界遺産シンポジウム in 佐賀（佐賀市・アバンセホール）
3月22日	日野熊蔵コンサート・講演会
春季	年次総会（場所未定）

【予定は都合により変更する事があります】

<編集後記>

ようやく今回原稿の次号持ち越し分が生じることになった。すぐに掲載できないことに関しては、誠に申し訳ない限りであるが、編集側としては次回分の原稿が既に手元にあるということは心強いことこの上ない。このようにして、継続的に原稿が集まる日を願うばかりである。（市原）

会費納入・ご寄付のお願い

当会は事務局体制や会報を充実させるため、会則により年会費を個人会員2000円、団体会員は5000円それぞれ徴収させて頂いています。当会の趣旨をご理解頂き、会費納入或いはご寄付の程、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

会費納入・寄付先口座【郵便口座】

17430-88882241

キウシュウサンギョウコウコガツカイ

九州産業考古学会事務局 〒811-3430 福岡県宗像市平井二丁目12-1 砂場一明 気付
 TEL&FAX : 0940-36-5501 E-mail : k-sunaba@jcom.home.ne.jp
 URL : http://f17.aaa.livedoor.jp/~heritage/

学会ML希望者は、上記アドレスもしくはWeb担当者 (iota_titanus@yahoo.co.jp) まで連絡願います。